

令和4年度 第2回羽島市幼保小連携推進協議会

日 時	令和5年3月6日(月) 15時00分～16時30分
場 所	羽島市役所本庁舎 3階 301会議室
出席者	<p>【委員】 西川委員長、安藤(理)副委員長、高砂委員、安藤(賢)委員、木下委員</p> <p>【事務局】 (教育委員会) 森教育長、今井田事務局長、南部学校教育課長、中村同課幼児教育係長、 (健幸福祉部) 横山子育て・健幸担当部長、熊崎次長兼子育て・健幸課長 小森同課幼保支援係長</p> <p>【傍聴者】 1名</p>
内 容	<p>1 開会 2 議事</p> <p>事務局より資料を用いて説明を行った後、議事(1)(2)(3)について意見交流</p> <p>(1) 令和5年度以降の取組みについて</p> <p>【委員】 ・令和5年度の重点である「園・小学校がお互いの教育・保育について理解を深める」ことは、架け橋プログラムに明記されており大切である。</p> <p>【委員】 ・小学校区によって、園の数に違いがある。モデル小学校区は、どのような小学校区がふさわしいと考えているのか。</p> <p>【委員】 ・園実習の方法や還元方法はどうしていくのか。</p> <p>【事務局】 ・モデル小学校区の在り方については、現在検討中である。 ・園実習は市の取組みとして行い、各小学校で1～3名が参加し、還元する方向で考えている。</p> <p>【委員】 ・幼保小連携は、担当者だけでなく、多くの教員が参加することが大切である。</p> <p>【委員】 ・小学校の教員だけでなく、保護者にも幼児教育について知る機会を作るとよい。</p>

【事務局】

- ・保護者がどういう考え方でお子さんに接するかは非常に重要である。幼児期の子供をもつ保護者への啓発について事務局で検討したい。

【委員】

- ・モデル小学校区の実践の進め方は、どのように考えているのか。

【事務局】

- ・他市町の具体的な実践例を参考にし、本市のモデルをつくっていく。

【委員】

- ・架け橋期のカリキュラムの開発については、市でリードしていく必要がある。

(2)小学校区（※義務教育学校前期を含む）の連携について

【委員】

- ・小学校の教員が、幼児教育について理解するような取り組みが必要である。

【委員】

- ・小学校区の学校運営協議会において、園職員の小学校参観の実施について話があった。目的意識を共有して実施し、始まりでつまづかないようにしたい。

【委員】

- ・育てたい資質・能力を明確にし、教育・保育を進めていくのが架け橋プログラムである。保護者とも「だからこういう保育・授業になる」ということを早く共有したい。

【委員】

- ・市で、育てたい資質・能力を明らかにして、幼保小接続期プランを作成していく必要がある。大切な小学校のスタートに役立つ。

【委員】

- ・園実習では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にするとよい。

【事務局】

- ・始まりでつまづくと、取り戻すのに時間がかかる。早い段階で、学校や保護者の認識を変えることが大切である。
- ・園実習において園の役割は大きい。園にも協力していただき、有意義な実習になるように事務局で検討していく。

(3)幼保小連携に関わる各小学校・園への調査について

【委員】

- ・架け橋プログラムの課題として、幼児教育の在り方への理解がある。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にすることが大切である。

【委員】

- ・保護者には、架け橋プログラムについて周知されていない。すべての小学校教員が架け橋プログラムを理解していると保護者も安心である。

【委員】

- ・各小学校区で架け橋期のカリキュラムを作成するまでに、幼保小連携についての共通理解が進んでいくことが大切である。

【委員】

- ・複数の小学校に就学していく園があるため、小学校によって取組みに差が出ないようにしてほしい。

3 閉会